



生徒の実態	学校の実態	スクールミッション	地域の実態	校訓
定員割の影響で幅広い学力層の生徒が入学。ほぼ全ての生徒は4年制大学への進学を希望している。	定員割が続いているが、卒業生の7割近くは国公立大へ進学する。令和6年度よりSSHの指定を受けている。	大学や研究機関、国内外と連携し、専門的な知識や柔軟な発想を身に付ける。郷土への誇りや愛着を醸成し、社会の発展を担う人材を育成する。	少子化が顕著である。中学生の他地区への流出もあり地域への愛着、つながりが弱まっている。	敬愛 進取 叡智

学校教育目標

校訓として、「敬愛、叡智、進取」を掲げ、「力行天下第一」の教育信条のもとに研鑽を積むことにより、自己実現を図り、社会の変化に主体的に対応しつつ、その発展に寄与できる心豊かな人間を育成する。

育成を目指す資質・能力

地域に変容をもたらす力	新たな価値を創造する力	力行天下第一
課題発見力 共創力 行動実践力	アイデア創出力 情報編集力 具現化力	探究力 持続力 自己更新力

総合的な探究の時間[力行タイム]の目標

探究の見方、考え方を働かせ、自分の将来や地域の未来について多面的に把握することで、自分が持つ可能性や社会課題を発見し、企業や大学、地域住民と積極的に関わりながら、論理的に課題解決を目指す。そのために以下の資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の魅力や課題を理解し、その改善や価値創出に活かすための力として捉える。歴史・文化・産業などを学び、調査・分析・表現といった技能を身につけることで、地域や社会の現状を自ら読み取り、周囲と協働しながら変化を生み出す主体へと育成する。学んだ知識や技能を実社会で活用し、地域に新たな可能性をもたらす力を育む。	社会や地域に新たな価値を生み出す力と捉える。課題に対して独自の視点を持ち、必要な情報を組み合わせて道筋をつくり、具体的な提案や行動として実現する力を育む。自分なりの着眼点から物事を捉え、収集した情報を整理・再構成しながら解決の方向性を練り上げることで、その考えをわかりやすく示し、実際の行動や形として表す力を身につける。	本校の精神を象徴する「力行天下第一」の実践を通して育成する。自ら課題を見つけ、粘り強く向き合い、学んだことを次の行動へつなげていく姿勢や、新しい知識や考え方を柔軟に受け止め、自分の成長に生かそうとする態度、周囲の人々と協力しながら、よりよい社会の実現に貢献しようとする心を育成する。

地域に変容をもたらす力			新たな価値を創造する力			力行天下第一		
課題発見力	共創力	行動実践力	アイデア創出力	情報編集力	具現化力	探究力	持続力	自己更新力
4 地域のフィールドワークや人々と積極的に対話する中で、これまで気づけなかった地域の良い点や、改善すべき課題を複数発見できる。さらに、なぜその課題が起きているのか、その背景にある本質的な原因まで深く考察することができる。	自分とは異なる意見や価値観を持つ人々の考えを深く理解し、その違いを乗り越えて、全員が納得できるような新たな解決策を導き出すことができる。文化祭や探究活動などの場で、周囲の意見をまとめるながら、チーム全体で協力して目標を達成できる。	地域の課題解決や探究活動のテーマに対して、具体的な行動計画を自ら率先して立て、周囲を巻き込みながら実行に移すことができる。困難に直面しても柔軟に対応し、最後までやり遂げることができる。	文化祭やSSHの授業、探究活動などで、既存の概念や常識にとらわれず、誰も思いつかなかったような革新的でユニークなアイデアを複数生み出すことができる。そのアイデアの実現可能性まで具体的に考察できる。	膨大な情報の中から、信頼性の高い情報を選別し、それらを論理的に再構築することができる。その結果、独自の視点や斬新なアイデアを創出し、探究活動の新たな方向性を見出すことができる。	頭の中にある複雑なアイデアを、誰にでも理解しやすい企画書やプロトタイプなど、具体的な形として表現できる。さらに、その魅力を効果的に伝えられるプレゼンテーション能力も備えている。	興味を持ったことについて、多角的な視点から深く探究することができる。文献調査や実験などを通して、独自の知見や新たな問いを生み出すことができる。	探究活動や部活動で、どんなに困難な課題に直面しても、それを乗り越えるための具体的な方策を自ら見つけ出し、最後まで諦めずに粘り強く努力を継続できる。	自分の弱点や失敗を冷静かつ客観的に分析し、そこから得た学びを活かして、新たな挑戦や成長を継続的に成し遂げることができる。常に自分自身をより良くしていくという強い意志を持っている。
3 街を歩いたり、地域の人と話したりする中で、地域の良い点や、もっと改善できる点を複数見つけることができる。発見した課題について、自分なりに考えを巡らせ、解決策のヒントを見つけておそうとする姿勢が見られる。	クラスや部活動、探究活動のグループワークで、異なる意見を持つ人も感情的にならずに建設的な対話ができる。お互いの意見を尊重しながら、協力して何かを成し遂げようとするすることができる。	地域の課題を解決したいという強い意欲を持ち、具体的な行動計画を立てて、最初の一歩を踏み出すことができる。計画通りに着実に実行し、責任を持って最後まで取り組むことができる。	探究活動やグループワークで、既存の枠にとらわれず、新しい商品やサービス、イベントなど、独創的で面白いアイデアを複数考えることができる。考えたアイデアを具体的に言葉で説明できる。	インターネットや書籍など、複数の情報源から必要な情報を効率よく集めることができる。集めた情報を自分なりに整理・分析し、そこから新しいアイデアや視点を作り出すことができる。	探究活動のアイデアを、レポートや試作品、プレゼンテーション資料など、具体的な形にすることができる。周りの人が見て、内容を分かりやすく理解できるよう工夫している。	興味を持ったことや、まだ知らないことについて、とことん深く掘り下げて学び続けることができる。一つのテーマについて、粘り強く調べ、深く理解しようとする姿勢が見られる。	困難な課題に直面しても、すぐに諦めずに、目標達成に向けて努力を続けることができる。探究活動や定期考査の準備で、最後まで粘り強くやり遂げることができる。	定期考査の結果や探究活動での失敗を素直に受け入れ、そこから学びを得て、次の行動に活かすことができる。自分の成長のために、反省点を改善しようとする努力ができる。
2 地域の良い点や課題に気づくことはできるものの、その気づきが表面的なものに留まっている。などそうになっているのか深く掘り下げて考えたり、複数の視点から物事を捉えたりすることが難しい。	意見が対立した際に、自分の意見ばかりを主張してしまったり、うまく話し合いを進められないことがある。他者の意見に耳を傾けることに苦手意識があるため、協力して何かを成し遂げることが難しい場合がある。	地域の課題解決に関心はあるものの、計画を実行に移すことに対して躊躇してしまう。最初の一歩がなかなか踏み出せない。計画通りに行動することが難しかったりする。	アイデアを考えることはできるものの、既存のものと同じだったり、着想が単一的になったりすることが多い。発想を広げることが苦手である。	情報を集めることはできるが、情報の信頼性を判断したり、整理・分析したりすることが不十分である。そのため、集めた情報から新しい視点やアイデアを生み出すことが難しい。	アイデアを持っているものの、それを具体的な形に表現することに苦戦する。そのため、周りの人に自分の考えをうまく伝えることが難しい。	興味を持ったことについて学ぶことはできるが、表面的な理解に留まってしまうことが多い。自ら進んで深く掘り下げて探求することが苦手である。	難しい課題にぶつかるのと、モチベーションが低下し、途中で投げ出してしまったりすることがある。困難を乗り越えるための方法を自ら見つけることが苦手である。	自分の弱点や失敗を認めず、自己肯定感が低く、そこから学ぶことが難しい。
1 地域の良い点や課題について、自分から積極的に関心を持つとうしない。そのため、周囲の出来事に対する気づきがほとんどなく、地域をより良くしていくという意識が見られない。	自分とは異なる意見を聞くことに苦しさを感じ、対話しようとしなかったりする。そのため、クラスやグループで協力して活動することができない。	地域の課題解決や身の回りの問題に対して、行動を起こすことに対して意欲が見られない。全てを他者に任せようとする。自分から主体的に関わりとうしない。	新しいアイデアを生み出すことに苦手意識があり、自分から意見を言うことが少ない。他者の意見に頼りがちで、主観的に発想しようとする。	情報を集めることに慣れておらず、何を参考にすれば良いかわからなかったり、情報の真偽を判断できなかったりする。	アイデアを具体的な形にしようとするのがほとんどなく、自分の考えを言葉だけで伝えることしかできない。	何事にも興味を持つことが少なく、自ら進んで深く学ぶ姿勢が見られない。疑問を持たず、与えられた情報を受け入れるだけになってしまう。	少しでも難しいと感じると、すぐに諦めてしまったり、目標に向かって努力を継続することができない。困難から逃げる傾向がある。	自分の失敗や弱点を振り返ることがなく、そこから成長しようとする意欲が見られない。同じような失敗を繰り返してしまう傾向がある。

学習活動	学習評価の方法と観点	指導方法と体制
自分の将来(Will)や地域の未来(Will)を題材として、探究の基礎を学ぶ。生徒が「未来」について主体的に考え、自己のキャリア形成や地域社会の課題解決に向けた視点を養うことを目的とする。	レポート、成果物、プレゼンテーションの内容とその運用プロセス、「振り返りシート」による自己評価を用いて評価する。	SSH探究指導部 (総合的な探究の時間担当)
個人探究を基本とし、自分ができることを突き詰め社会に貢献する術を探究する。「Will×Can×Must」探究モデルに基づき、2学年では「Can=自分の可能性・強み」を軸に探究を進める。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	1年次 2年次 3年次
高校生活で培った自己理解・課題解決力を生かし、進路選択と社会との関わりを意識した探究活動を行う。	社会的課題や可能性を適切な情報に基づいて理解し、解決のための方策も理解し効果的に活用している。 課題設定・情報収集、整理分析、まとめ・表現というプロセスを理解し、根拠に基づき論理的に構成している。 社会の課題を自分事としてとらえ、解決を目指し主体的に探究する中で自分自身のあり方も見つめている。	総探 [1単位] 総探 [1単位] 総探 [1単位]
		分野ごとに担当教員を置き探究の各プロセスで助言・指導する。担当分掌が方針を出し学年と連携する。